

映像付き音源再生の高音質化(15)
—電源用タップとケーブルの交換(3)—

1. 始めに

前報(14)に引き続き、NASに収録した音源を読み出して試聴します。

2. LAN 系統の電源用ケーブルの交換の試聴方法

音源は NAS に保存された 192KHz24bitWAV と 5.6MHzDSF 音源とし、前者は AudioGate3 で、後者は HQPlayer Desktop 3 ASIO による DSD Native 再生を行いました。

3. LAN系統の電源用ケーブルの交換の試聴結果

AudioGate3 による NAS 上の 192KHz24bitWAV 音源の再生では、これまで HQPlayer に少し水を空けられていた AudioGate3 も捨てたものではないというのが第一印象です。192KHz24bitWAV 音源はかなり以前に TASCAM DR-100 で 96KHz24bitWAV で録音し、192KHz24bitWAV にアップサンプリングしたのですが、結構聴けるのではないかという印象です。その後導入した TASCAM DA3000 で外部クロック入力を行って録音するとどうなるであろうかという期待が湧いてきます。HQPlayer Desktop 3 ASIO による NAS 上の 5.6MHzDSF 音源の DSD Native 再生では、これまでと違って DSD の良さが出てきました。

なお、NAS とルーターの間はかなり前に導入した AIM 電子の LAN ケーブルで接続していますので、このグレードアップに期待がかかります。

4. まとめ

LAN系統の電源の取っているタップへのパワーリベラメンテの使用とJBL4350A駆動パワーアンプとチャンネルデバーダーを電源の取っているタップへのパワーリベラメンテの使用の効果の合算の効果により、NASからの音源再生のグレードが上がりました。

以上